

令和元年度 学校評価の結果と状況分析

1 アンケートの回収状況

	対象	対象者数	回答数				回答率
			小	中	高	計	
1	教員	35	13	8	14	35	100%
2	保護者	44	10/13	7/9	15/22	32/44	73%
3	学校評議員	5	5				100%
4	ばんだい荘職員	8	8				100%
5	高等部生徒(通常)	17	16				94%

2 評価結果と学校経営・運営ビジョンにおける達成概況

(1) 評価結果

	ビジョンの内容	教員	保護者	ば荘	評議員	状況
全	楽しく登校できる学校	4	4	4	4	◎
つくり	児童生徒に合った学習と適切な評価	4	4	4	4	◎
	体験学習と生活に必要な授業の実施	4	4	4	4	◎
地域に 取り組む	進路情報の提供と進路相談	4	3	4	4	○
	連携を深め、生徒に応じた校内、校外実習	4	4	4	4	◎
	相談、支援に役立つ情報の発信とセンター的機能の発揮	4	4	4	4	◎
	指導力向上のための研修	4	4	4	4	◎
命を大切に する教育	保護者、ばんだい荘との協力	4	4	4	4	◎
	自他の尊重といじめ防止の取り組み	4	4	4	4	◎
	食育	4	4	4	4	◎
	災害への備え、防災教育	4	4	4	4	◎

※ 教員、保護者の評定は、3学部の評価を合わせた割合として評定をしている。

※ 評定は、以下の基準で行う。

評定	評価基準
4	「A」と「B」を合わせて90%以上で、「C」と「D」を合わせて10%以下の項目がある場合
3	「A」と「B」を合わせて70%以上であるが、「C」と「D」を合わせて30%以下の項目がある場合
2	① 「A」と「B」を合わせて40%以下であり、「C」と「D」を合わせて60%以上の項目がある場合 ② 「C」と「D」のいずれかが40%を越える項目がある場合
1	「C」と「D」を合わせて80%以上の項目がある場合

<ビジョンの達成状況>

「達成している」 → ◎	評定が対象区分において、すべて「4」である場合
「概ね達成している」 → ○	評定が対象区分において、「4」と「3」である場合
「改善を要する」 → △	評定が対象区分において、「2」がある場合
「問題がある」 → ×	評定が対象区分において、「1」がある場合

(2) 概況

- ① 評価項目の概ね全てにおいて、教員、保護者、学校評議員、ばんだい荘職員ともに評価ポイントが高いことから、学校の取組として、学校経営・運営ビジョンが達成されていると評価されたと言える。
- ② 保護者の評価は、学校生活および授業作りに関する評価ポイントが高く、概ね満足を得られている。また、進路指導に関する取り組みや保護者、ばんだい荘との協力、センター的機能の発揮といった項目については、他の項目と比べて「やや良い」という評価の割合が高く、今後、改善や更なる充実が課題である。

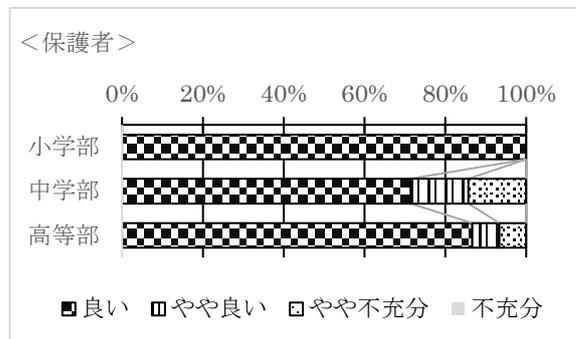
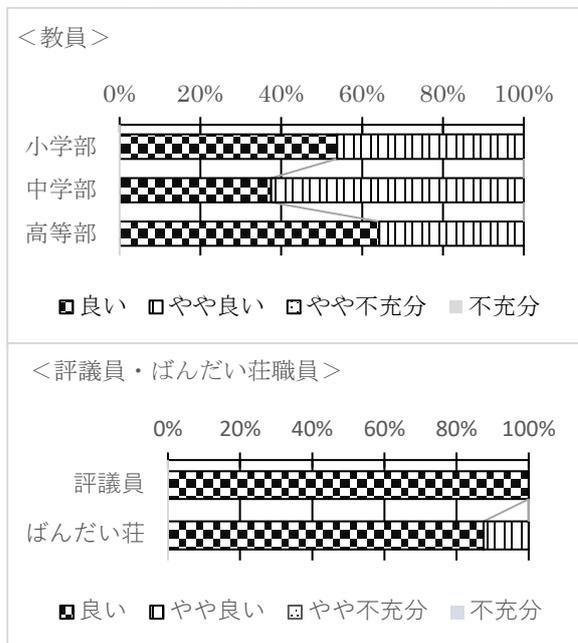
③ ばんだい荘職員の評価では、進路指導に関する取り組みや校内、校外実習、保護者、ばんだい荘との協力に関する項目が他の項目と比べて「やや良い」という評価の割合が高く、より良好な関係を築き、機能的な関係性を目指していくことが課題である。

3 各項目における評価結果と評価者間の比較・分析

注1：各回答間の比較において「多い」、「少ない」の表現で分析を行っているが、実数の比較ではなく傾向の比較として解釈すること。

注2：（ ）内は、学校経営・運営ビジョンの各項目の表記

(1) 楽しく登校できる学校（教育活動全般）

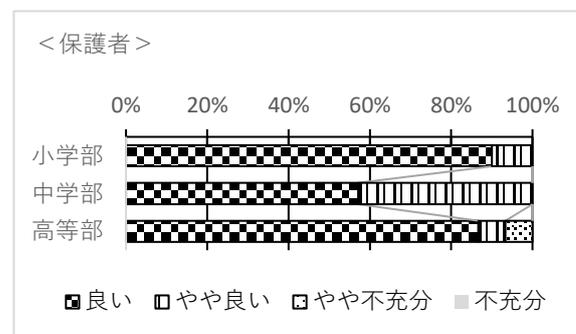
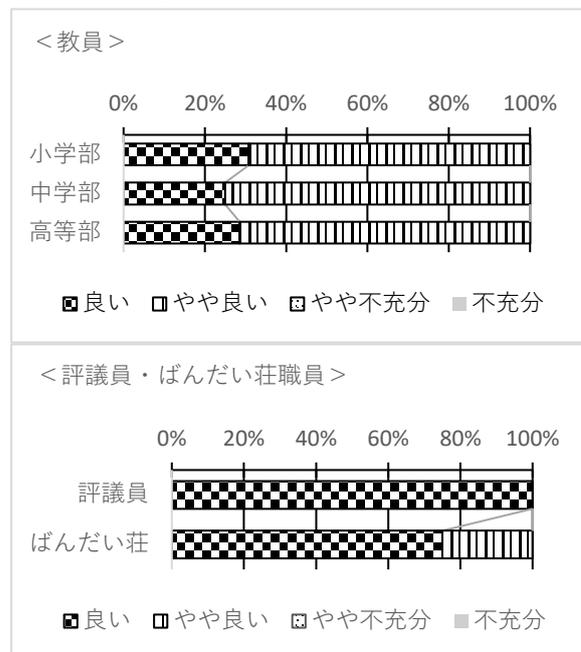


教員、保護者、評議員、ばんだい荘職員いずれもほぼ「良い」、「やや良い」で評価しており、児童生徒がおおむね楽しみを感じながら登校していると評価している。

- ・ 「良い」とする割合は、教員、保護者ともに中学部で若干少なくなっている。
- ・ 中学部の保護者1名は、生徒が児童相談所により面会等を制限された中、学校での様子について知ることができないことから「やや不十分」と評価している。
- ・ 高等部の保護者1名は、生徒、教職員両方に対して、朝の挨拶をもっと元気にできないのかといった意見をもっており、「やや不十分」と評価している。

(2) 児童生徒に合った学習と適切な評価

(各教科等の目標や内容および系統性を踏まえた年間指導計画の作成、適切な学習評価の推進と主体的な学びの保障)

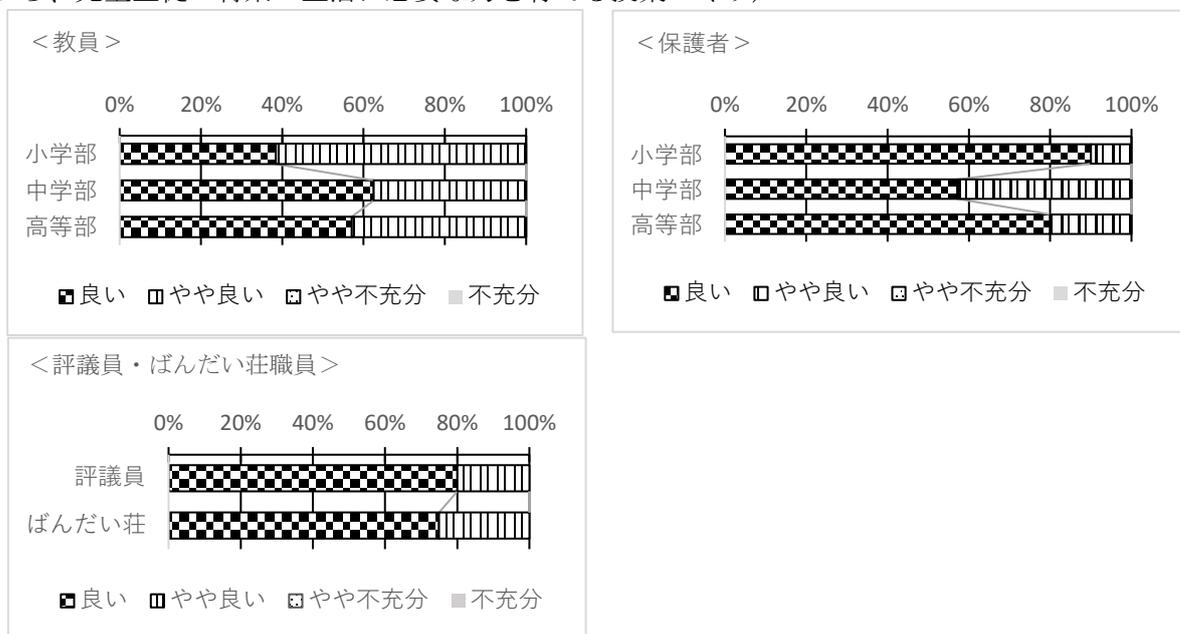


教員、保護者、評議員、ばんだい荘職員ともにほぼ「良い」、「やや良い」で回答しており、概ね児童生徒に合った学習と評価が行われていたと評価している。

- ・ 教員と保護者では、保護者の約7割が「良い」と評価しているのに対して、教員は約3割が「良い」と評価していることから、**教員の多くが授業実践や評価に対して、やや不安を抱えていることが分かる。**また、常によりよい授業実践を求める教員の姿勢や新学習指導要領を踏まえた授業実践に戸惑いを感じていることが表れていると思われる。

(3) 体験学習と生活に必要な授業の実施

(教科学習等における体験的な学習活動を通して自ら学び、集団の中で学び合う姿をめざしながら、児童生徒の将来の生活に必要な力を育てる授業づくり)

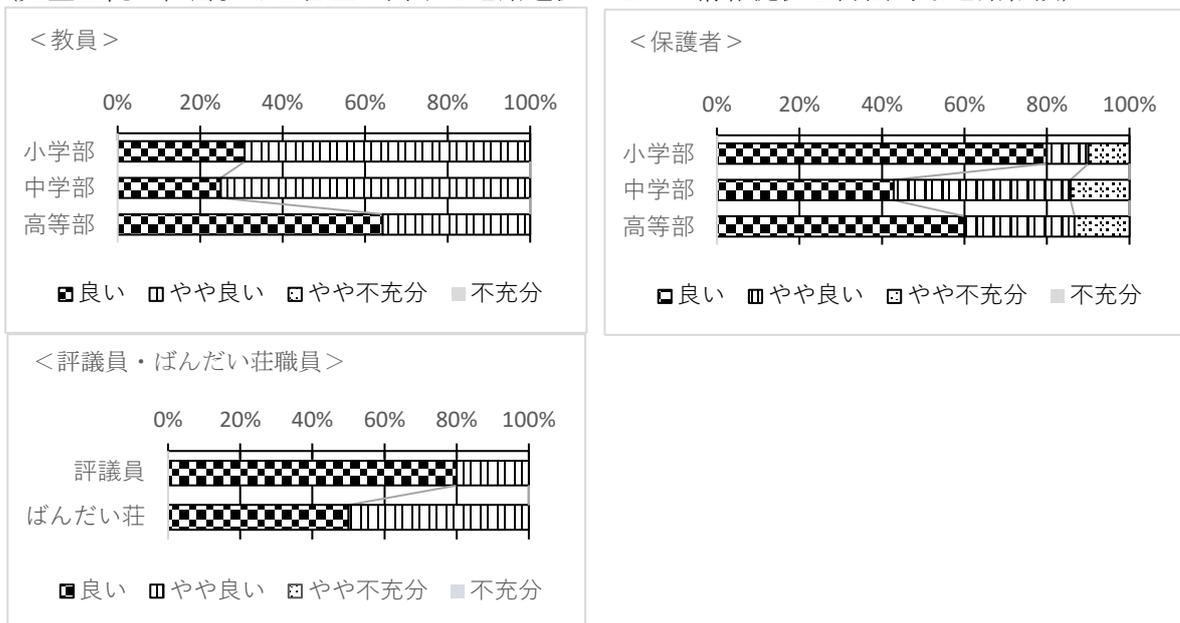


教員、保護者、評議員、ばんだい荘職員ともに「良い」、「やや良い」で回答しており、概ね児童生徒の将来の生活に必要な体験学習、授業が行われていると評価している。

- ・ 教員と保護者では、保護者の約8割が「良い」と評価しているのに対して、教員は約5割が「良い」と評価していることから、**教員の中には、実際の指導内容や授業が、児童生徒の将来の生活に生かされるものであるのか、試行錯誤しながら取り組んでいることが分かる。**

(4) 進路情報の提供と進路相談

(児童生徒の社会参加と自立に向けた進路選択のための情報提供と計画的な進路相談)

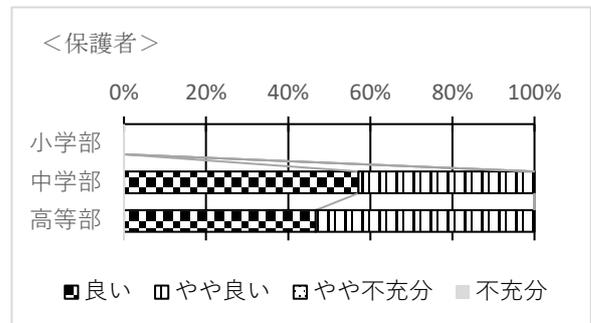
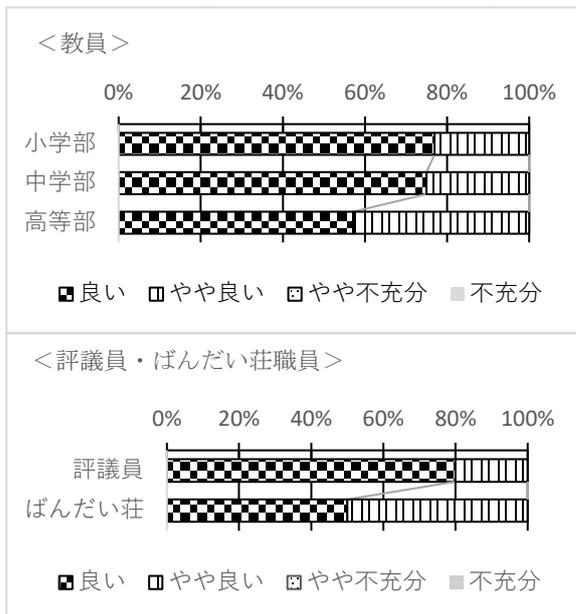


教員、評議員、ばんだい荘職員ともに「良い」、「やや良い」で回答しているが、保護者の中に

は「やや不十分」との回答が各学部において見られる。

- ・ 教員の評価は、小学部、中学部においては「やや良い」が約7割を占め、高等部においても約4割が「やや良い」と評価しており、各学部ごとに改善する余地があると考えている教員がいることが分かる。
- ・ 保護者の評価は、約6割が「良い」と評価している一方で、各学部において「やや不十分」と回答しているが、「小学部なので、よく分からない。」(小)、「見たいのに、見ることができない。」(中) (上記(1)と同じ保護者)、「実習先を決める上で、実習先の様子や作業内容などを分かりやすく教えてほしい。」(高)と言った意見が述べられている。
- ・ ばんだい荘職員の評価は、「良い」「やや良い」それぞれ半数であり、改善する余地があると考えている職員がいることが分かる。

(5) 連携を深め、生徒に応じた校内、校外実習
(関係機関との連携を深めた実習の実施)

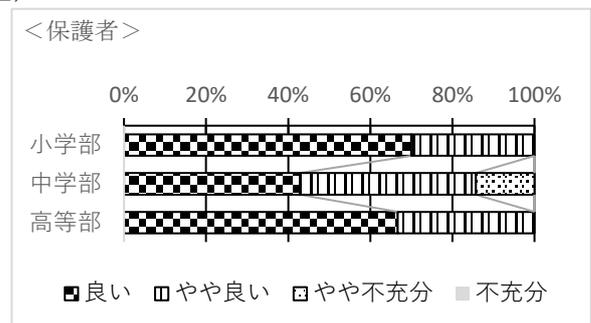
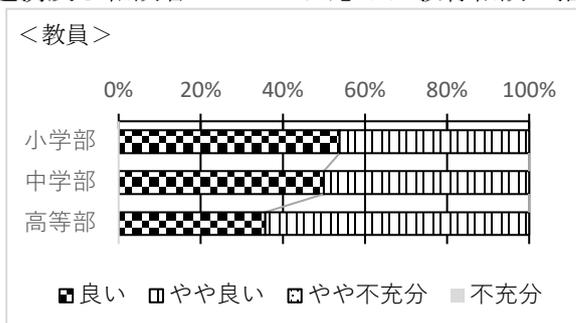


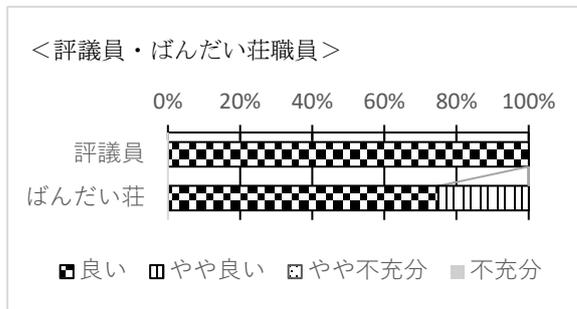
教員、保護者、評議員、ばんだい荘職員ともに「良い」、「やや良い」と回答しており、概ね関係機関との連携を深めた実習ができたと評価している。

- ・ 小学部、中学部の教員は、「良い」とする評価が約8割であるのに対し、高等部教員の約6割が「良い」との評価となっており、卒業後の進路を見据えた実習を実施するに当たって、難しさや改善の余地を感じている教員がいることが分かる。
- ・ 保護者の評価は、中学部の約6割が「良い」と回答しているのに対して、高等部では5割を少し下回る保護者が「良い」と評価しており、卒業後の進路を意識した校内、校外実習を経験した保護者の中には実習に関して改善の余地があると考えていることが分かる。なお、小学部の保護者については、進路だより等で実習の取り組みを紹介しているが、直接関わるものではなく、評価することが難しいため、回答対象外とした。

(6) 相談、支援に役立つ情報の発信とセンター的機能の発揮

(校内の人材や実践事例等の有効な活用による組織的なセンター的機能の発揮、関係機関との連携及び相談者のニーズに応じた教育相談の推進)



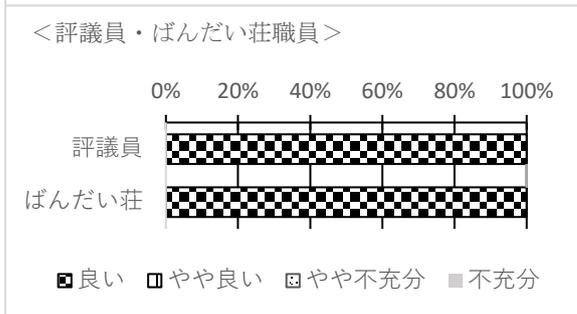
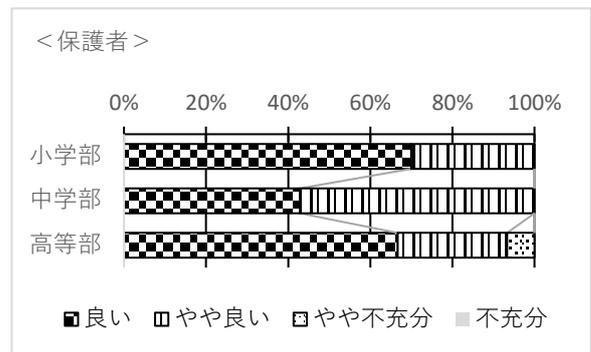
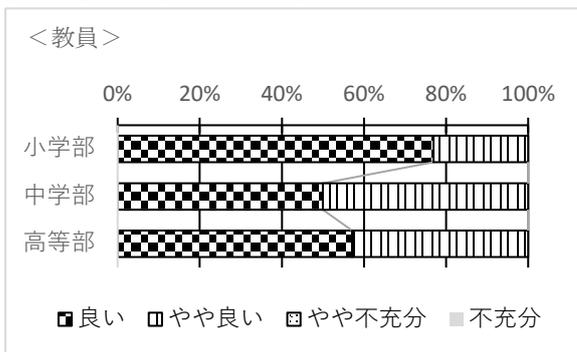


教員、保護者、評議員、ばんだい荘職員ともにほぼ「良い」、「やや良い」で回答しており、概ね組織的なセンター的機能を発揮し、関係機関との連携や相談者のニーズに応じた教育相談が適切に行われたと評価している。

- ・ 教員の評価は、保護者の評価に比べて「良い」が少ない傾向であるが、**係からの情報発信があるものの、直接関わっていない教員が多く、「やや良い」との回答が多くなっているもの**と推察する。
- ・ 保護者の評価は、中学部で「やや不十分」とする評価があるが、(1)と同じ保護者であり、「それは知らない。」と意見を述べている。

(7) 指導力向上のための研修

(本校教職員及び地域の教育関係者の専門性や指導力の向上を目指した『いなっ子セミナー』を含む地域への発信の実施)

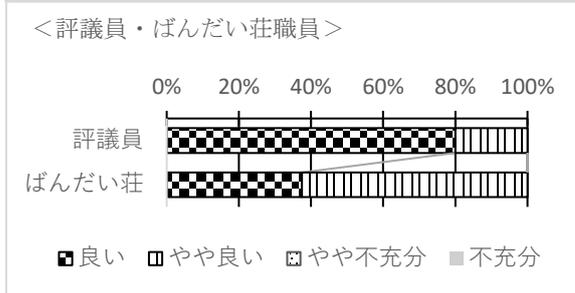
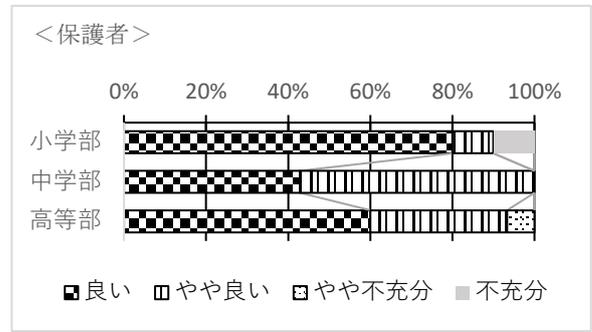
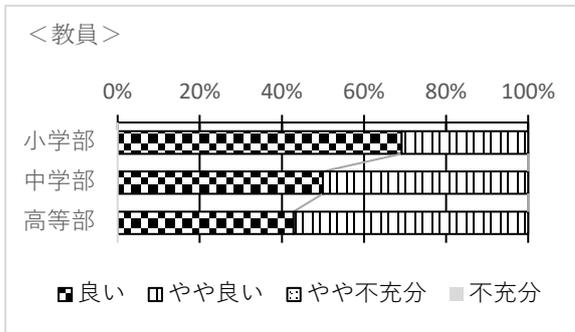


教員、保護者、評議員、ばんだい荘職員ともにほぼ「良い」、「やや良い」で回答しており、概ね指導力向上を目指した研修に取り組むことができたと評価している。

- ・ 教員の評価では、小学部の教員は約8割が「良い」と評価していて、充実した研修ができたと感じている教員が多いが、**中学部の教員は5割、高等部の教員は約4割が「やや良い」と評価しており、改善の余地があるとの評価**をしている。
- ・ 保護者の評価は、ほとんど「良い」「やや良い」と評価しているが、高等部の保護者1名が「実際にやられているのかわからない。」とのことで、「やや不十分」と評価している。

(8) 保護者、ばんだい荘との協力

(保護者やばんだい荘、関係機関と連携した児童生徒の安全確保、学部間での活発な情報交換を通じた問題の共有と積極的な対応)

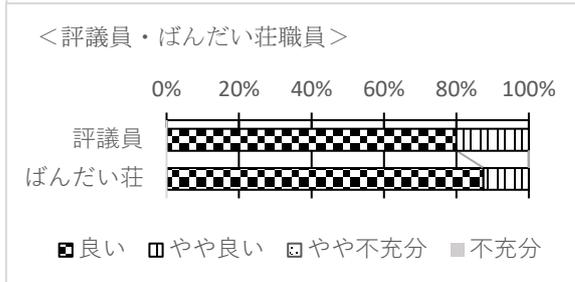
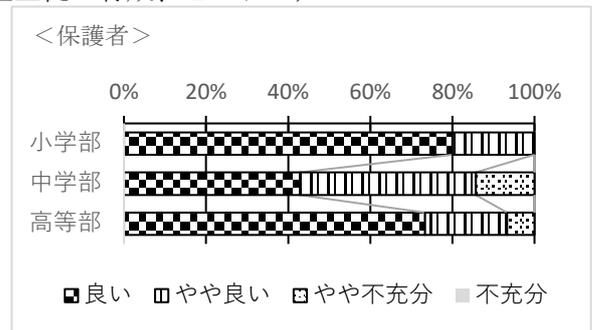
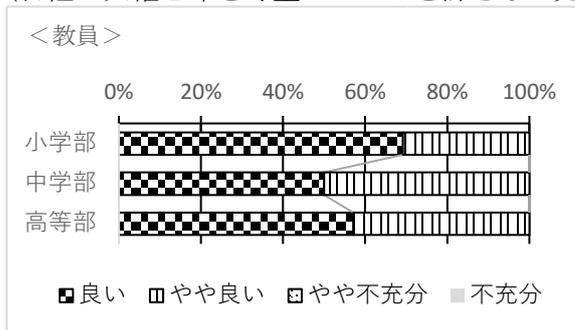


教員、評議員、ばんだい荘職員ともに「良い」、「やや良い」で評価しているが、保護者の中には、「やや不十分」「不十分」との評価があり、保護者あるいはばんだい荘との協力関係に課題を感じていることが分かる。

- ・ 教員の評価は、学部が上がるにつれ、「良い」との評価が少なくなり、高学年になるほど、保護者やばんだい荘との「連携」や「協力」面で難しさを感じていることが分かる。
- ・ 保護者の評価は、概ね「良い」「やや良い」であるが、「やや不十分」「不十分」がある。小学部の保護者1名が「不十分」と評価しているが、避難訓練で行った保護者引き渡し訓練にはばんだい荘が参加していないと考えた結果によるもので、ばんだい荘に入所している児童生徒は、施設において引き渡しを行うこととなっていることをより明確に周知しておかなければならないことが分かった。
- ・ ばんだい荘職員の評価は、「やや良い」が6割となっており、「連携」や「協力」面で改善の余地があると考えていることが分かる。

(9) 自他の尊重といじめ防止の取り組み

(自他の人権と命を尊重しいじめを許さない児童生徒の育成、心のケア)



教員、評議員、ばんだい荘職員ともに「良い」、「やや良い」と評価しているが、保護者には「やや不十分」との評価があり、改善の余地があると考えている保護者がいることが分かる。

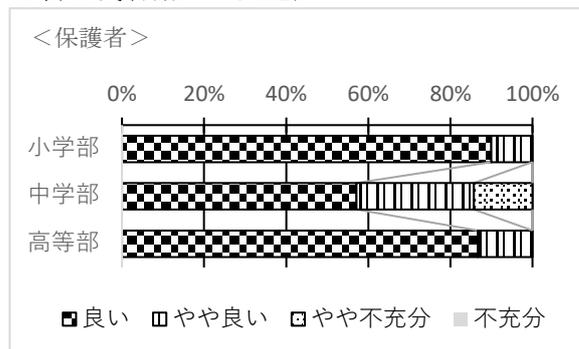
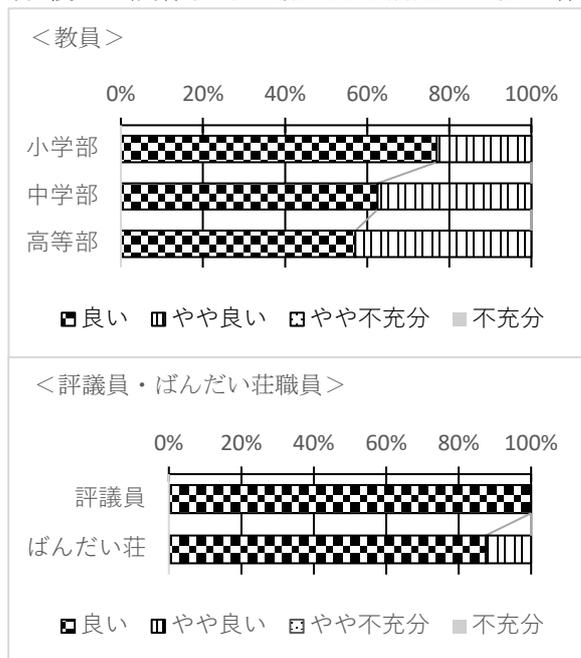
- ・ 教員の評価は、「やや良い」が4割となっており、改善の余地があると考えている教員がいることが分かる。
- ・ 保護者の評価は、9割が「良い」「やや良い」と回答しているが、「やや不十分」との回答があった。いじめに関するアンケートが重複障がいのある児童生徒にとって、理解できない内容

であることを指摘しており、児童生徒の実態に応じた調査方法が求められていることが分かる。

- ・ ばんだい荘職員の評価は、9割が「良い」と回答しており、いじめに関するアンケートで指摘されている事案のほとんどがばんだい荘内で発生している事案であることを鑑み、学校として適切に対処していると評価されていることが分かる。

(10) 食育

(収穫した農作物や地場産品を活用した献立作りを含む食育講座の実施)

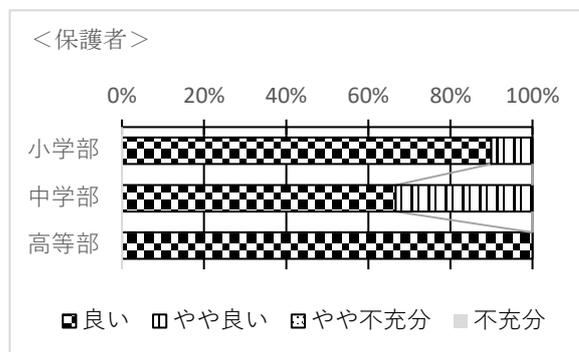
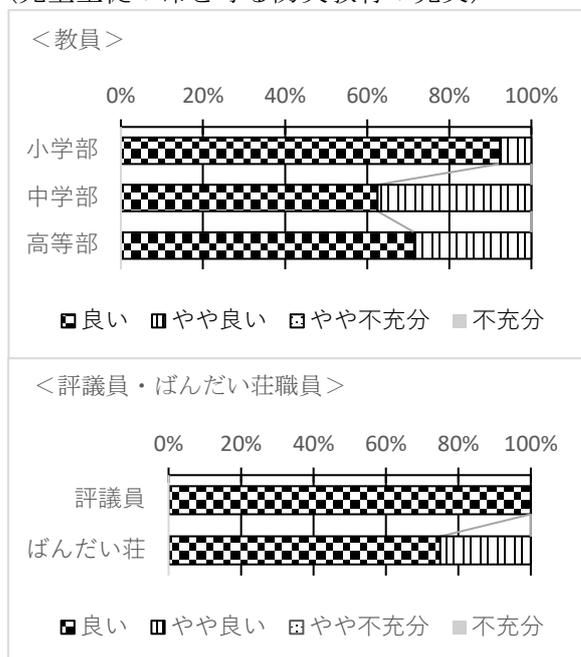


教員、保護者、評議員、ばんだい荘職員ともにほぼ「良い」、「やや良い」で回答しており、「良い」と回答している割合は他の項目に比べて全般的に多い。食育に関する取組を評価していることが分かる。

- ・ 保護者の評価は、中学部で「やや不十分」とする評価があるが、(1)と同じ保護者であり、「それは知らない。」と意見を述べている。

(11) 災害への備え、防災教育

(児童生徒の命を守る防災教育の充実)



教員、保護者、評議員、ばんだい荘職員ともに「良い」、「やや良い」で回答しており、「良い」と回答している割合は他の項目に比べて全般的に多い。今年度は特に備蓄食の整備を行い、試食

会などを実施したことから高い評価を得られたものと推測する。

4 アンケートの記述内容からのまとめ

- (1) 教員アンケートの記述では、学校経営・運営ビジョンに関連する具体的取組について問題提起となる意見が出された。
- (2) 保護者アンケートの記述では、学校に対する感謝や満足感を表す意見も述べられているが、**具体的に行われていることが分かりにくいという意見**が出された。また、いじめに関するアンケートについて、**児童生徒の実態を考えて、答えることが難しいとの意見**が出された。**進路に関する情報提供についての意見**も出された。さらに、**高等部に入学後、教員の対応の変化に戸惑っている様子**を伺うことができる意見が出された。
- (3) 学校評議員アンケートでは、学校の取組について評価する意見が多数述べられており、特に問題を指摘する意見はなかった。
- (4) ばんだい荘職員アンケートでは、学校の取組について評価する意見が述べられている一方で、**校外実習の取組や児童生徒の呼称に対する意見**が出された。

5 高等部生徒のアンケート結果

各項目で「いいえ」「わからない」の回答がある程度あるが、大きく問題となる回答はない。分かる授業、卒業後の進路については、「はい」の割合が他の項目と比べて若干少なくなっている。授業については、**生徒が分かる授業作りを継続して追求**していく必要がある。進路については、障がいの特性から、将来のことを具体的に考えていく困難さはあるが、**職業の授業や進路相談の更なる充実**を図ることが求められる。

記述による回答では、授業に関する要望のほか、学習環境に関する意見が出された。実現困難な意見もあるが、学校生活に期待感をもっていることが分かる。

教員、保護者、評議員、ばんだい荘職員アンケート記述内容

<教員>

- ボランティア講座（PTA）も「地域につなげる取り組み」の一環として、目的や実施内容の再確認と職員間での共通理解が必要ではないか。
- 地域につなげる取り組みとして、進路では主に実習等を通して地域につなげているが、今後、よりスムーズにつなげ、担任が異動で本校にいなくても支援し続けられるツールとして「個別の移行支援計画」の必要性を感じる。

<保護者>

「1 楽しく登校できる学校」

- 朝の挨拶が生徒、先生も少ないのではないかと（もう少し元気ある学校が理想です）。（高）

「2 児童生徒に合った学習と適切な評価」

- 教科ごとにコミュニケーションがとれているのかどうかわかりにくい。（高）

「4 進路情報の提供と進路相談」

- 充分とは言えない（小学部なのでわかりにくい）。（小）
- 進路情報で実習先を決めたりするときなど分かりやすく（事業所の様子や作業内容など）してほしい。（高）

「7 指導力向上のための研修」

- （小、中の交流会以外に）実際にやられているのかどうかよくわからない。（高）

「8 保護者、ばんだい荘との協力」

- ばんだい荘との協力との点は疑問が生じます。避難訓練は参加されていないですね。現地集合まで通してやらないと、分からないことがあるのではないかと思います。（小）

「9 自他の尊重といじめ防止の取り組み」

- いじめに関するアンケートの内容が言葉が話せない子供にとっては答えることが難しい内容だなと毎年思っていました。（高）

「全般」

(小学部)

- いつも大変だろうと思いつつ助かっています。障がいがあってもできるっていうのを目の当たりにしていつも感動しています。ありがとうございます。この学校に入れて、本当に良かったと思います。

(高等部)

- 小規模校ならではの指導や活動、雰囲気は大変恵まれていて満足しています。
- 高等部に入ると急に大人の対応になります。卒業後のことを考え、自立していけるように大事だとは思いますが、体は大人になっても知的にも心もまだまだ幼い子供達なので、とても不安定になってしまいます。その子に合わせた対応で進めてほしいと感じます。自分の気持ちを伝えられない子ばかりなので。
- 高等部ということもあり、義務教育も終了し、就労へ向けての時期なのは十分承知していますが、支援学校なので、もう少し関わりが深くても良いのかなと感じます。
- クラスによって連絡や相談ができていない様である。担任が保護者に伝えてくれないと分からないことがたくさんある。私のクラスはきちんと伝えていただいているのでありがたいです。

<評議員>

「9 自他の尊重といじめ防止の取り組み」

- 今年度、人権教室の実施を計画されましたので、命の尊さ、いじめ対策への前向きな姿勢がうかがえます。

「10 食育」

- 自然環境への対策を工夫されて無理なく採れた野菜への収穫を大切に食する喜びが見られました。

「11 災害への備え、防災教育」

- 他機関の防災方法等を参考にされ、予期せぬ事態の万全な避難対策に努めておられることが理解できました。

「全般」

- 子供達が生き生きと授業や作業に取り組んでいる様子を見ることができました。また、食育や防災活動も熱心に取り組まれていることがわかりました。現在、改築工事中でもあり、子供達や先生各員にけが等のない様に配慮してください。
- お便りの中の写真や文面などから、評議員として、とてもよく学校内の様子をうかがうことができました。学校長の意向も年々前進的な活動につながる温かい取り組み、運営につながっていることを拝見、拝聴でき、とてもうれしく思っています。学校が町中で身近でないこともあり、もっと町内の人にも理解していただけるよう評議員としても周りの方々にお伝えできるよう努めていきたいと思えます。
- 地域（翁島）地区との交流を推し進めてはどうでしょう（区長会との交流など）。

<ばんだい荘>

「全般」

- 発達に応じた教育を行っていただけています。
- 学校で経験したことを、子供達は嬉しそうに、ばんだい荘で話してくれています。これからもいろいろな経験ができるようご協力をお願いいたします。
- 骨折事故についての説明（報告）が評議員にも必要かと思いました。その上でさらに安全面について配慮していくことについて説明があるとよかったですと思いました。
→指摘を受け、後日、各評議員には、生徒事故発生について、個別に報告した。
- 校外実習において、公共交通機関を利用する場合、事前指導の在り方、施設の立地場所から本人の安全面に配慮した時期の設定が必要かと思えます。
- 学校としての権利擁護はどのように行われているのでしょうか。「ちゃん」「君」での敬称が多くみられます。